

## 【 水管理について・・・7月～8月 】

### (1) 幼穂形成期～穂揃期・・・根の活力を保つ！！

稲の一生で最も水の必要な時期になります。根ぐされや下葉の枯れ上がりを防ぐため、こまめな間断灌水を行いましょう。

### (2) 穂揃期～登熟期・・・水田の夜間温度を下げる努力を！！

出穂後20日間は米の肥大が旺盛な時期なので、土壌水分が不足しないよう間断灌水を行い、根の活力を保つために常時の灌水は避けてください。また、夜間に高温が続く場合は心白粒対策のため、夜間の用水のかけ流しを行ってください。

### (3) 落水・・・早期落水をしない！！

早期落水は玄米の充実不足や、未熟粒、死米を増加させます。また、胴割れ粒や過乾燥の原因となり品質を低下させるため、落水は穂揃後25日頃（熟れ色の着き始め）を目安にしてください。

## 【 病害虫防除・・・穂いもち、紋枯病、カメムシ、ウンカ 】

### ○穂いもち防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	ブライコ粉剤 DL	3～4kg	穂ばらみ期～穂揃期 収穫7日前まで
液剤	ブライコアブル	1000倍 (薬剤150cc/水150ℓ)	穂ばらみ期～穂揃期 収穫7日前まで

### ○紋枯病防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	バリコ粉剤 DL	3～4kg	穂ばらみ期～出穂期 収穫14日前まで
粒剤	モガリット粒剤	3～4kg	出穂2～3週間前に湛水状態で使用 収穫30日前まで
液剤	バリコ液剤5	1000倍 (薬剤150cc/水150ℓ)	穂ばらみ期～出穂期 収穫14日前まで

### ○稲こうじ防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	Zボルト粉剤 DL	3～4kg	出穂20～10日前に散布 出穂10日前まで
粒剤	モガリット粒剤	3～4kg	出穂2～3週間前に灌水状態で使用 収穫45日前まで
液剤	トイボルト-A	2000倍 (薬剤75cc/水150ℓ)	出穂20～10日前に散布 出穂10日前まで

### ○カメムシ防除(基本防除)

		薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	1回目	ビートボルト粉剤5DL (穂首いもち同時防除)	4kg	穂揃期を中心 収穫7日前まで
	2回目	スタークル粉剤DL (エクシード粉剤DL)	3kg	1回目散布後10日後 収穫7日前まで

### ○カメムシ防除(液剤防除)

		薬剤名	通常散布	無人航空機による散布	使用上の注意
液剤	1回目	ビートボルトアブル (穂首いもち同時防除)	650倍 (薬剤230cc/水150ℓ)	5倍 (800ml)	穂揃期を中心 収穫14日前まで
	2回目	スタークル液剤10	1000倍 (薬剤150cc/水150ℓ)	8倍 (800ml)	1回目散布後10日後 収穫7日前まで
エクシードアブル		2000倍 (薬剤75cc/水150ℓ)	16倍 (800ml)		

### ○フタオビコヤガ(イネアオムシ)・ウンカ・ツマグロヨコバイ防除

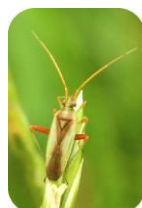
	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	スタークル粉剤 DL	3kg	発生時随時防除 収穫7日前まで

※ハーブ米及びびつや姫生産者の方は使用できる薬剤が限られますので、防除にあたっては稲作ごよみ又は、各事業所へご確認下さい。

### ○斑点米の原因となるカメムシ類と葉を食害するフタオビコヤガ

カメムシ類は、水田周辺の雑草で増殖し、稲穂が出ると穂に集まり実を吸汁し、斑点米を発生させます。

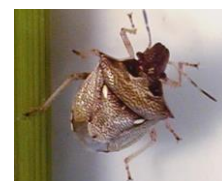
フタオビコヤガは幼虫が葉を食害し、葉にカスリ状の食痕が見られ、多発すると葉が食いつくされて中央の葉脈だけが残ります。



アカシガシカメムシ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



フタオビコヤガ  
(イネアオムシ)